

もしものときのために、備えあれば憂いなし ナイキでは「防災オフィス」をご提案

ナイキでは快適で美しい空間づくりだけでなく、地震の際の“人命の安全確保”と“二次被害の防止”について考えた「防災オフィス」をご提案。

もしものときに役立つ防災・地震用品を用いたプランで、“備えあれば憂いなし”をかたちにします。

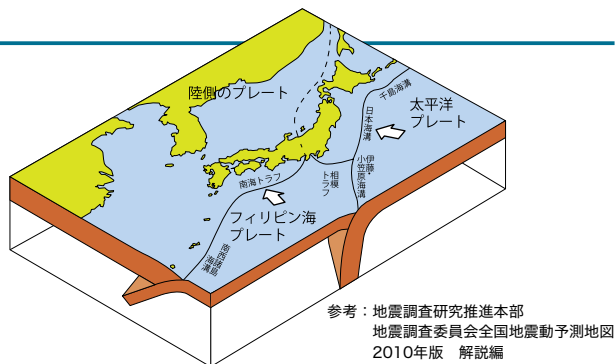
東日本大震災にて大きな被害を受けたオフィス



地震対策はなぜ必要？

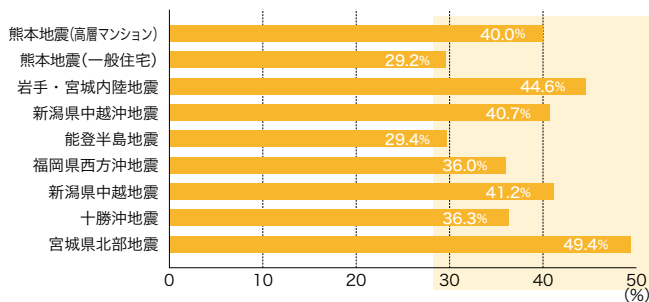
「天災は忘れたころにやってくる」の言葉通り、
自然災害はいつか必ず起こります。

地球の表面は十数枚のプレート（岩盤）で覆われ、各プレートは少しずつ移動しています。日本は4つのプレートがぶつかり合う場所に位置するため、世界有数の地震国といわれています。震度7クラスの巨大地震への備えは、私たちにとって避けられない大きな課題。「地震と想定外の地震災害」について考え、しっかりと地震対策を行っておくことこそが防災につながります。



オフィスで起きた地震では、なにが危険？

■近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけが人の割合

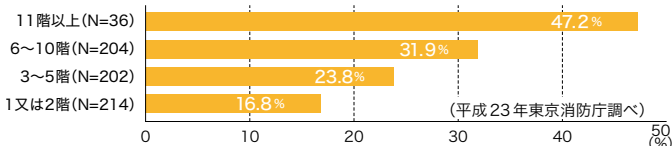


参考：東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」

東日本大震災では、高層階になるほど家具類の 転倒・落下・移動が増えました。

東日本大震災の発生後に行った調査では、高層階になるほど家具類の転倒・落下・移動の割合が大きくなっていることがわかりました。これは、東日本大震災が長周期地震動であったことが一因と考えられます。

■都内における階層別の家具類転倒・落下・移動発生割合



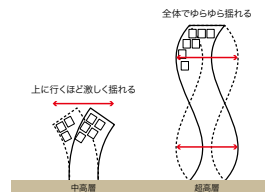
参考：東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」

家具類の転倒・落下・移動によるケガが多く、 さらには出火が起ることもあります。

近年発生した地震でけがをした原因を調べてみると、約30～50%の人が家具類の転倒・落下・移動によるものでした。オフィスの場合、家具類の転倒・落下・移動は、直接当たってけがをするだけでなく、つまりいで転んだり、割れたガラスを踏んだり、避難通路をふさいだりするなど、さまざまな危険をもたらします。また、収納物が火気器具の上に落ちると火災が起きることもあり、大きな二次災害につながってしまいます。

【長周期地震動の特徴】

- ① 海の波のように遠くまで伝わります。
- ② 地震動が終息したあとも、建物が数分に渡って揺れることがあります。
- ③ 東海・東南海・南海地震などのM8クラスの地震が起こると、都内の50階ビルでは片振幅2mに達する揺れが10分以上継続する可能性があります。
- ④ 高い建物の高層階が被害を受けやすい特徴があります。(建物や地域によって異なる。)



- ワークシステム
- デスクシステム
- 事務用チェア・輸入チェア
- ローバーディジョン
- 収納家具
- 書庫・キャビネット
- ロッカー
- 金庫
- 防災・地震対策用品
- セキュリティ用品
- 会議用テーブル
- 会議用チェア
- オフィスラウンジ
- プレゼンテーション機器・黒板
- 役員室用家具
- 応接セット
- ロビーチェア
- カウンター
- オフィス・ロビー用品
- オフィス周辺什器
- レセプション用家具
- 間仕切り
- 移動ラック・シェルビング
- ラック・工場備品
- 高齢者福祉施設・病院用家具
- 学校用家具
- 店舗用家具